



# 第 14 回 DSANJ Digital Bio Conference 2024

## ご発表（ご提案）資料作成ガイドライン

はじめに	・・・	1
ご発表（ご提案）資料全体について	・・・	2
「表紙」について	・・・	2
「Background to study」について	・・・	4
「Summary of study」について	・・・	4
「Advantage of this study・・・」について	・・・	5
「Plan for practical application …」について	・・・	7
「Reference」について	・・・	7
「Related Information」について	・・・	8

Drug Seeds Alliance Network Japan

更新日 2024.6.3

## はじめに

Drug Seeds Alliance Network Japan（以下「DSANJ」とします）は、製薬企業とのマッチングの場である DSANJ Digital Bio Conference（以下「D-Bio Digital」とします）向けにご発表（ご提案）資料（様式 3）（以下、単に「提案資料」とします）を作成いただく際のご参考情報としてガイドライン（以下、「本ガイドライン」とします）を作成いたしました。

DSANJ は、創薬に係る研究開発を実施するスタートアップ、バイオテック、アカデミアの先生方向けに、本ガイドラインに沿って作成いただくご発表（ご提案）資料を製薬企業にプロモーションし、同企業とのマッチング（共同研究等）をご支援いたします。

提案資料の作成にあたっては、おおむね学会発表等で作成されたスライドを流用いただけます。一方、D-Bio Digital では口頭発表の機会が設けられていないため、製薬企業とのマッチング成功確率を高めいただくために可能な限り本ガイドラインに沿って提案資料を作成いただくことを強く推奨しております（本ガイドラインは、過去 14 年間の D-Bio Digital 実績と製薬企業の声をもとに作成しております）。

なお、機密保持の観点からご発表（ご提案）資料は**非機密情報のみ**で作成をお願いいたします。（非秘密情報で構成されるご発表（ご提案）資料の転用は、参加製薬企業各社に対して DSANJ が固く禁じております）。

最後に、D-Bio Digital を通じて先生方のご研究成果の価値が飛躍的に高まり、またご研究が持続的なものとなりますことを心からご祈念申し上げます。

### 【英語での資料作成について】

D-Bio Digital には外資系製薬企業が多く参加することから、特に「Background to study」「Summary of study」のスライドは英語での作成をお薦めいたします。外資系製薬企業から参加される方々は、直接の報告先（レポートライン）が日本人以外となるため、研究成果の基本部分を英語で作成いただくことにより、製薬企業側の評価が迅速になるとのメリットが生まれます。

※なお、D-Bio Digital の面談に参加される方は日本語での対応が可能な方々です。

DSANJ は、製薬企業とアカデミア、スタートアップ、バイオベンチャーの双方の研究者が効果的かつ効率的にサイエンスの価値を共有できるパートナーを見つけ出し、双方が創薬力を高め合う最適な環境を構築することを趣旨としております。先生方のパートナーリングの選択肢を広げていただくためにも提案資料の一部英語化を推奨しております。

## ご発表（ご提案）資料全体について

### 1) 指定フォーマット

- ・提案資料の作成にあたっては、DSANJ が提供する Microsoft ® PowerPoint フォーマット（ご発表資料ひな形：様式 3）のご使用をお願いいたします。フォーマット各ページの左下には資料の取り扱いに係る製薬企業向けの注意書き（※注）が記載されていますので、削除されませんようお願いいたします。※注意書きを削除されてご提出いただいた場合、運営事務局にて本注意書きの追加をいたします。予めご了解をお願いいたします。
- ・ご発表資料ひな形に記載の「ガイド文言（赤字・橙字・青字）」は削除をお願いいたします。

#### ※注：資料の取り扱いに係る注意書き（参加製薬企業向け）

Copyright © 2024 Drug Seeds Alliance Network Japan (DSANJ)  
DSANJ edits and creates this material based on non-confidential information received from the proposer and / or researcher. Any Secondary use of this material is strictly prohibited.  
DSANJは研究者から受領した非秘密情報に基づいて本資料を編集・作成しています。本資料の二次利用を固く禁じます。

### 2) 各項目の配分と規定枚数

「表紙」1 枚、「Background to study」2～3 枚、「Summary of study」3～5 枚、「Advantage of this study over competing studies」1～2 枚、「Plan for practical application and collaboration with companies」1 枚、「Reference（Patents / Background materials）」1 枚、「Related Information」1 枚の計 10～14 枚が標準となります。枚数に上限はございませんが、過去の面談希望実績と評価者（製薬企業）にかかる負荷の観点から最大 18 枚程度を上限として作成いただくことをお勧めしております。

### 3) スライドのサイズ（4：3）

提案資料は事前配布先の製薬企業が紙媒体で出力することを前提としておりますので、スライドのサイズは標準（4：3）で作成をお願いいたします。ご発表資料ひな形を開いた際に、ワイド画面（16：9）で表示されるケースがあります。その際には、「デザイン」→「スライドのサイズ」から標準（4：3）を選択いただき、資料の作成をお願いいたします。

## 「表紙」について

### 1) フォントサイズ

- ・タイトルは日英併記（タイトル 18 ポイント、サブタイトル 14 ポイントを目安）、所属・肩書・氏名は日英併記（12 ポイントを目安）で作成をお願いいたします。
- ・他の発表者様との条件を整えるため、所属のロゴや写真などの挿入は控えていただきますようお願いいたします。※公平性の観点から、運営事務局にてロゴや写真を削除する場合がございます。

### 2) 所属と氏名

- ・国立大学法人、独立行政法人などの設立根拠法の記載は割愛させていただきます。

- ・所属と役職（教授、准教授、センター長など）は、参加製薬企業が確実に連絡できるよう、主となる大学、研究機関に限定して記載をお願いいたします。また、英語での所属および氏名のご記載も主となる大学、研究機関に限定して記載をお願いいたします。

### 3) ご発表の表題 (Presentation title)

- ・“想定される疾患名”、“ご研究の成果物”（例えば創薬シーズの場合：創薬標的、ヒット・リード化合物・リガンド・試薬・動物病態モデル等リサーチツール・バイオマーカー・遺伝子治療・再生医療、等／例えば創薬基盤技術の場合：薬物送達技術、遺伝子改変技術、疾患遺伝子の同定技術、製剤化技術、等）を表す単語を用いていただき、ご発表（ご提案）内容を参加製薬企業が容易にイメージできる表題 (Presentation title) あるいはサブタイトルを設定いただくことを強くお勧めいたします。過去の D-Bio Digital の実績を踏まえ、運営事務局からタイトルの修正をご提案する場合がございます。その際にはご検討をお願いいたします。
- ・参加申込時にはタイトルのみをご登録いただけます。製薬企業向けのプロモーショントップページにはご登録いただきましたタイトルのみ（サブタイトルは表示されません）が表示されますので、ご発表タイトルの設定には十分にご検討をよろしくお願いいたします。  
※タイトルの設定にご助言等が必要な場合、本ガイドライン末尾のお問合せ先までご連絡をお願いいたします。製薬企業の関心を引くタイトル案を DSANJ 側からご提案させていただきます。
- ・英文でのタイトルもご記載をお願いいたします。
- ・以下にタイトルあるいはサブタイトルを例示いたします。

#### ＜ご発表に創薬シーズを含む場合＞

- 創薬標的 X の発見・同定
- 創薬標的 X の細胞レベルでの仮説検証
- 創薬標的 X の動物レベルでの仮説検証
- ヒット・リード化合物（低分子・ペプチド等）の取得
- 新薬候補薬剤（抗体・核酸等）の取得
- DDS を用いた創薬標的の仮説検証
- バイオマーカーとセットでの創薬標的 X の仮説検証
- 免疫療法（再生医療）関連技術による創薬標的 X の仮説検証

#### ＜ご発表に創薬基盤技術を含む場合＞

- ○○疾患に応用可能な薬物送達（DDS）技術
- ○○疾患モデル動物（遺伝子改変動物を含む）
- ○○を標的としたスクリーニング技術
- ○○を標的としたアッセイ技術
- ○○疾患に応用可能な再生関連技術
- ○○疾患に応用可能な細胞療法技術

## 「Background to study」について

### 1) 項目タイトルと番号

“Background to study”が複数ページになる場合は、スライドを挿入する際に以下のように番号の差し替えをお願いいたします。※運営事務局が校正を実施する場合がございます。

Background to study (1)

Background to study (2)

### 2) サブタイトルの活用と簡明な研究の背景記載

スライド毎にサブタイトルをご活用いただき、当該疾患領域、創薬シーズ、創薬基盤技術等の研究現状、本研究に着手された経緯、本研究推進の必要性等の記載をお願いいたします。

### 3) 1<sup>st</sup> Indication (有望な臨床応用)

過去の D-Bio Digital の実績を分析すると、製薬企業とのパートナーングにあたっては「当該研究から見出された創薬標的、医薬品候補物質、創薬基盤技術がどの疾患の治療として有望か（あるいは応用可能か）を科学的にアピールすること」が重要であることが確認されています。複数の疾患が考えられる場合には、最も有望と考えられ、また、データが充実している疾患を中心に記載をお願いいたします。

※その他想定される疾患については、提案資料末尾「Related Information」スライド内の「Potential target disease on this proposal」で記載をお願いいたします。

## 「Summary of study」について

### 1) 項目タイトルと番号

“Summary of study”が複数ページになる場合には、スライドを挿入する際に以下のように下記のように番号の差し替えをお願いいたします。※運営事務局が校正を実施する場合がございます。

Summary of study (1)

Summary of study (2)

### 2) 実験結果の図

実験結果が共同研究の大きな判断材料になります。簡明で魅力的なデータのご提示をお願いいたします（公開可能な情報のみで作成をお願いいたします）。

**D-Bio Digital では製薬企業向けの口頭発表の機会を設けておりません。参加製薬企業に面談希望の有無を判断する十分な検討材料を提供するため、例えば以下の 3) サブタイトルの活用と簡明な研究の背景記載、4) 実験方法の十分な説明、5) 略語の説明、の項目が重要になると考えます。**

### 3) サブタイトルの活用と簡明な研究の背景記載

各スライドにサブタイトルの記載をお願いいたします。例えば創薬シーズの場合、「膵臓がん細胞癌株に対する化合物X, Yの効果」「マウス移植モデルに対する効果」など、実験の目的や結果を示すサブタイトルの記載をお願いいたします。

Summary of study (1)

膵臓がん細胞癌株に対する化合物X, Yの効果

Summary of study (2)

マウス移植モデルに対する効果

また、例えば創薬基盤技術の場合、例えば「血液脳関門 (BBB) 研究を目的とした細胞キットの開発」「in vitro (本キット) と in vivo (ラット) との比較実験」など、実験の目的や結果を示すサブタイトルの記載をお願いいたします。

Summary of study (1)

膵臓がん細胞癌株に対する化合物X,Yの効果

Summary of study (2)

マウス移植モデルに対する効果

### 4) 実験方法の十分な説明

実験方法 (使用動物・細胞、投与量・添加濃度、投与ルートや期間) や実験結果のグラフ等の説明については、口頭の説明無しで理解出来るわかりやすい表記をお願いいたします。

### 5) 略語の説明

当該技術・研究領域の専門家でなくても分かるように、まだ一般的でない略語には非省略語の併記・脚注をお願いいたします。

## 「Advantage of this study over competing studies」について

### 1) 項目タイトルと番号

“Advantage of this study over competing studies”が複数ページになる場合には、スライドを挿入する際に以下のように番号の差し替えをお願いいたします。※運営事務局が校正を実施する場合がございます。

Advantage of this study over competing studies (1)

Advantage of this study over competing studies (2)

・製薬企業は、既存の技術に対する優位性を最も重要視いたします。参加製薬企業からは、

「実用化を考えた場合、新規性・独創性だけではなく、他の研究との比較優位性をアピールいただくことが社内の合意形成につながる」との声が多く聞かれます。

- ・基礎研究の場合、先生の独自の研究で発見されたアッセイ系や病態モデルのノウハウが優位性につながります。
- ・研究初期の段階では比較データがなく未検証の場合が多いですが、得られているデータやロジックからの推測（期待）も含めて、当該技術領域のゴールドスタンダード（一般的に用いられている技術）と比較した優位性を明記いただくと、参加製薬企業に対する訴求力が高まります。

## 2) 研究成果の優位性

ご研究成果の優位性を「研究概要のまとめ」として具体的かつ簡明に記載をお願いいたします。いずれも、未公開の場合には他社に先駆けて先生が発見された創薬標的、新薬候補あるいはそれらの研究の際に開発し各種リサーチツールを利用出来るため優位性につながります。なお、適用可能な創薬標的、具体的な疾患が秘密情報に該当する場合は、具体名を伏せて、標的 X や大まかな疾患でご記載をお願いいたします（データを含む秘密情報は絶対に開示いただかないようご注意ください）。

記載例)

- ・標的 X のアッセイ系を構築し、化合物ライブラリの中から阻害効果物質を発見している。
- ・自己免疫疾患の動物病態モデルで標的 X を検証中。

## 3) 創薬研究での優位性

創薬研究では、ゴールドスタンダードの既存薬（既存治療方法）との差別化（優位性）が必須となります。比較データがない場合は仮説で結構ですので、可能な限り現在の医療現場における標準治療薬（既存治療方法）に対する優位性の記載をお願いいたします。

## 4) 競合品（競合技術）との比較の項目（例）

競合技術やゴールドスタンダード（技術）に対する優位性には、例えば次の項目が挙げられます。

- ・有効性（精度や感度等） ・ 特異性（差別化） ・ 利便性（操作性等）
- ・安全性や副作用等 ・ 経済性（製剤／原薬の製造コスト大幅低減）

## 「Plan for practical application and collaboration with companies」について

### 1) 項目タイトルと番号

“Plan for practical application and collaboration with companies”が複数（2 ページ以上）になるときは、下記のように番号の差し替えをお願いいたします。※運営事務局が校正を実施する場合がございます。

## 2) 今後の研究計画

研究のゴールや今後の研究計画の記載をお願いいたします。

## 3) 今後の課題や予想されるハードル

ゴール達成のためのハードル（課題）の記載をお願いいたします。

## 4) 大学と企業の分担

- ・ご提案者（Proposer）の分担：先生が希望される項目
- ・企業（Business partner(s)）の分担：下記の項目が事例として挙げられます。希望される主要な項目で結構ですので記載をお願いいたします。

記載例)

- ・技術の貸与と製薬企業が保有する化合物でのデータの取得
- ・知的財産の確保（特許の出願、権利化）
- ・安全性試験等の実施

## 「Reference (Patents/Background materials )」について

### 1) 本件に関する特許

- ・特許出願されている場合には、差し支えない範囲で出願番号、発明の名称および出願人の記載をお願いいたします。
- ・出願特許が公開されている場合には、公開番号、発明の名称および出願人の記載をお願いいたします。
- ・特許権利化済の場合は、特許番号、発明の名称等の記載をお願いいたします。

### 2) 本件に関する主要な論文、文献

- ・直接関係する主要論文（自著、共著、他著問わず）がございましたら、記載をお願いいたします。



## 「Related Information」について

### 1) 本提案に関するキーワード

今回のご研究成果に該当するキーワードの記載をお願いいたします。

### 2) 本提案以外に想定される疾患領域（臨床適応の拡大等）

今回、データで示したアプリケーション（疾患・用途）以外で応用が可能と想定される疾患あるいは用途がございましたら記載をお願いいたします。

以上

ご発表（ご提案）資料の作成にあたり、ご不明な点等ございましたら  
D-Bio Digital 運営事務局までお問合せをよろしくお願いいたします。

第 14 回 DSANJ Digital Bio Conference 2024 運営事務局  
（(株)インターグループ内）

担当：神戸（カンベ）、高木（タカギ）、米澤（ヨネザワ）

住所：〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎3丁目20-1

E-mail：info@dbio.jp

電話番号：D-Bio Digital 専用ダイヤル（IP 電話）【050-5490-4115】

※上記 IP 電話が繋がらない場合は、

(株)インターグループ コンベンション部【06-6372-8455】までお電話を  
よろしくお願いいたします。

※電話対応は午前 10 時～午後 5 時までとさせていただきます。

時間外の場合は E-mail <info@dbio.jp> までご連絡をお願いいたします。